

在胎期間別出生時 体格曲線

(22~42週)

2010
年度版

男児版

表面

在胎期間別出生時体格曲線（初産）

裏面

在胎期間別出生時体格曲線（経産）

総監修

板橋 家頭夫

昭和大学医学部小児科学講座 教授

監修

伊藤 善也

日本赤十字北海道看護大学臨床医学領域 教授

田中 敏章

たなか成長クリニック 院長

在胎期間別出生時体格曲線（22～42週）について

総監修 板橋 家頭夫 昭和大学医学部小児科学講座 教授

新生児のリスク予知や早産児の出生後の成長の指標として不可欠な「在胎期間別出生時体格曲線（22～42週）」のグラフを作成した。以前作成・使用されていたものは、1995年に出生した新生児のデータを基にしていたが¹⁾、近年の周産期医療および母体・胎児環境を反映していないため、2010年に厚生労働科学研究班により作成されたデータ^{2)・4)}を基に、新たに本グラフ冊子を作成したものである。作成にあたっては、諸外国でも最近採用されている^{5)・7)} LMS⁸⁾法を用いた。

周産期母子医療に携わる産科・小児科・小児外科の先生方には、こちらをお手元に置いていただき、必要に応じて活用いただければ幸いである。

なお、本冊子活用にあたっての留意点は下記の通りである。

(板橋家頭夫：在胎期間別出生時体格曲線、乳幼児発育曲線について教えてください。成長障害診療 Q&A 69：2015 より引用)

- ①出生時の体格評価には、2010年に公表された在胎期間別出生時体格値を用いる。
- ②在胎期間別出生時体格値はLMS法で作成されているため、所定の在胎週数と日の身体計測値から、その時点のSDスコアやパーセンタイル値を求めることができる。
- ③在胎期間別出生時体格値は単胎の経膈分娩例を対象に作成されているが、帝王切開例や多胎児の評価にも利用できる。
- ④新しい在胎期間別出生時体格値は胎児発育基準値と類似している。
- ⑤早期低出生体重児のNICU入院中の成長の評価は在胎期間別出生時体格値を利用し、SDスコアで表すことにより、基準値からの偏りが分かりやすくなるが、在胎37週以後の評価には留意する必要がある。
- ⑥子宮外発育不全（EUGR）の有無についての情報は、NICU退院後のフォローアップを行う上で、重要な情報の一つである。

文献

- 1) 小川雄之亮、岩村透、栗谷典量ほか：日本人の在胎別出生時体格基準値。日新生児会誌 34 (3)：624-632, 1998
- 2) 板橋家頭夫、藤村正哲、楠田聡ほか(日本小児科学会新生児委員会)：日本小児科学会新生児委員会報告：新しい在胎期間別出生時体格標準値の導入について。日小児会誌 114 (8)：1271-1293, 2010
- 3) 日本小児科学会新生児委員会：「新しい在胎期間別出生時体格標準値」の修正について。日小児会誌 114(11)：1771-1806, 2010
- 4) Itabashi K, Miura F, Uehara R, et al. : New Japanese neonatal anthropometric charts for gestational age at birth. *Pediatr Int* 56 (5) : 702-708, 2014
- 5) Bonellie S, Chalmers J, Gray R, et al. : Centile charts for birthweight for gestational age for Scottish singleton births. *BMC Pregnancy Childbirth* 8 : 5. doi:10.1186/1471-2393-8-5, 2008
- 6) Visser GH, Eilers PH, Elferink-Stinkens PM, et al. : New Dutch reference curves for birthweight by gestational age. *Early Hum Dev* 85 (12) : 737-744, 2009
- 7) Olsen IE, Groveman SA, Lawson ML, et al. : New intrauterine growth curves based on United States data. *Pediatrics* 125 (2) : e214-224, 2010
- 8) Cole TJ. : Fitting smoothed centile curves to reference data. *J R Statist Soc A* 151 (3) : 385-418, 1988

総監修：板橋家頭夫
監修：伊藤善也、田中敏章
企画・発行：ノボ ノルディスク ファーマ株式会社
編集・制作：株式会社メディカルレビュー社
© 日本母乳哺育学会一般社団法人